

「ニーバーの祈り」

2025・2・26 重枝 一郎

音楽科卒業生会代表の方から、「重枝校長と話していて、ニーバーの祈りの言葉を思い出しました。私自身とても大切な言葉としているものです。重枝先生、ご存じですか？」

(重枝)「もちろん知らない(笑)。なんでそう思ったの？」

(代表)「音楽科だけでなく、学校全体の運営方針を聞いてそう感じました」

私は、いろんな人と女学院について語り合いながら、本校の〈ならでは感〉を考えるようにしている。そんな中で、元気や勇気をいただけることも多い。

これは1年前くらいに本校の先生から言っていたいただいた言葉になるが、「校長先生が来て、学校が、ゆるやかに、ガラッと変わった」と言われた。この言葉は、私自身、先生方に大きくストレスをかけず、どんよりしない学校運営をしたいと思っていたので、最上級の誉め言葉として宝物にしている。とてもうれしかったので、いろんな人に言いふらしている(笑)。特に、「ゆるやか」と「ガラッと」の対比がいい。その一言で、いろんな苦勞が吹っ飛んだ気がした。

ニーバーの祈り

神よ、変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、
それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、変えることのできるものと、変えることのできないものと
を、識別する知恵を与えたまえ。

ラインホールド・ニーバー (大木英夫 訳)

少し話はそれる気もするが、校舎建て替えが決まったと同時に、旧校舎をどう活用するかが気になった。私は、どうも倉庫的な考えが本学院にあるような気がして、慌てて、2年前に、理事会の議題にあげようとした。しかし、議題にあげてもらおうとしたところ、議題にはしてもらえず、私がしゃべるだけの時間をとってもらって終わった。そこで、強く訴えたのは、「本学院は生存戦略だけをメンバーに強いていて、成長戦略の話は誰もしない！」ということだけは主張した。現、廣田理事長は「生存戦略」と「成長戦略」の表裏一体改革の考えである。そんな廣田理事長とは、日頃からよくコミュニケーションをとらせていただいている。いつも中高のことをポジティブに応援していただいている。私もとても支えられている。また、廣田理事長が、新年のあいさつにおいて語られたことは、とても勇気をいただいた。それは経営方針で語られた、以下のワードである。これが最上位の目標になる。

- ・福岡女学院〈ならでは感〉の形成・可視化
- ・〈協調・融和〉対立と分断を生まない風土

廣田理事長がこのような人物だから、前に職員会で話した、賞与制度の見直しが実現した。学院の最上位の目標を中高の私たちは共有して、日常の教育活動をしていく。

「ニーバーの祈り」の言葉につながる。